

つくばフォーラムはNTTの主催、情報通信エンジニアリング協会、通信電線器材協会、全国通信用機器工業協同組合の共催、NTTグループ企業の後援により開催される。参加対象者は、これら主催・共催・後援会社の社員と出展社の招待者である。参加は事前登録制で、つくばフォーラム公式HPで受け付けている。

つくばフォーラム2025

テーマ「世界を変える価値創造を 持続可能な社会を支えるアクセスネットワークへの挑戦」

初日午前10時20分から、NTTの川添雄彦副社長による「IOWN誕生から5年 次の5年に向けて」と題した基調講演1、続いてNTTドコモの佐藤隆明副社長による「つなごう。驚きを。幸せを。～6G時代のWell-beingな社会の実現に向けて～」と題した基調講演2を予定しております。

NTT筑波研究開発センタ北休憩所では、初日午後2時から当研究所の南勝也プロジェクトマネージャによる「NWロバスタ化・業務自動化に向けたAI活用によるオペレーション技術

の研究開発」と題した技術セミナー1、午後2時40分からは国立研究開発法人防災科学技術研究所の中村研究部門長による「南海トラフ巨大地震の発生の多様性を考慮したリスク評価」と

基調講演、技術セミナー、技術交流サロンなど企画

題した技術セミナー2の講演を行います。二日目午前10時50分からは北休憩所で、当研究所の本田奈月プロジェクトマネージャによる「社会インフラ維持管理の新時代へ～AI活用&シェアリング～」と題した技術セミナー3、

午前11時30分からは当研究所の佐野時裕プロジェクトマネージャによる「社会インフラの運用イノベーションと新価値の創出に向けた研究開発について」と題した技術セミナー4の講演を行います。

また、同会場午後1時から技術交流サロンとして「ここまで来た！宇宙衛星HAPS活用の最新状況と2030年に向けた展望」のテーマで、各社の事例を紹介してパネルディスカッションを行います。

基調講演、技術セミナー、技術交流サロンは、オンデマンド配信を行います。



プログラム概要

AS研の海老根崇所長が紹介

NTT展示では、初日午前10時から二日目午後3時30分まで、NTT筑波研究開発センターで「サビスの高度化・多様化を支える技術」「運用を根本的にスマート化する技術」「新ビジネス領域を開拓する技術」の各テーマに沿ったコーナーを設け、研究開発成果をご紹介します。

IOWN/6Gの取り組みなど AS研の最新研究開発成果を紹介

「サビスの高度化・多様化を支える技術」(R1会場) ここでは、高速大容量化・低遅延化・カバレッジの拡大を実現する技術、ユーザーやサービスに柔軟に合わせる・多様なデバイスを受容する技術をご紹介します。主な展示項目は以下のとおりです。

▽「エッジ処理と品質安定化で簡単クラウドの遠隔いちご収穫」低遅延FDN技術のスマート農業への活用▽「目指せサステナブル光線路」ネットワークのさらなる高性能化に貢献する光線路技術▽「地下でも水中でも過酷地でも商用電源不要のセンシング」光ファイバ給電による超省電力端末構成技術

▽「陸・海・空・宇宙へ全てを通信圏内へ」サービスエリアを拡大する衛星・HAPS通信技術▽「免許不要のギガビット級無線を移動環境でも手軽に活用」Wi-Fi 6Eの移動体対応を実現する無線制御技術▽「快適に繋がる続ける無線アクセスを実現します」マルチ無線プロアクティブ制御技術・CradioV「誰にでも、エッジで快適な無線サービスを提供」生成AIを用いたIntent

共催団体企業、NTTグループ、一般企業が展示・紹介

共催として協力いただく情報通信エンジニアリング協会様からは、品質の向上と効率化および大規模災害時の迅速な設備復旧、安心・安全・信頼される情報通信インフラ設備の実現に向けた取り組みをご紹介します。通信電線器材協会様からは「現場業務に直結するもの」から「IOWNに関連する最新製品」まで多くの展示をご紹介します。

5月15、16日 NTT筑波研究開発センターで開催

NTTは5月15日と16日の2日間、茨城県つくば市のNTT筑波研究開発センターを会場に「つくばフォーラム2025」を開催する。今年のテーマは「世界を変える価値創造を 持続可能な社会を支えるアクセスネットワークへの挑戦」。同社は2023年3月にIOWN・IOWN1.0サービスを開始し、翌24年8月には世界初のIOWN国際間APNを開設させるなど、NTTグループが新中期経営戦略で示したとおり、新たな価値創造とグロー

バルサステナブルな社会実現に向けたIOWN/6Gへの研究開発に挑戦し続け、実用化を加速させている。フォーラムではこのIOWN/6Gをはじめ、様々な社会課題を解決するためにアクセスサービスシステム研究所(AS研)が取り組む多岐にわたる研究開発について最新の成果を紹介する。また、今回も共催団体ならびにNTTグループ各社、NTT研究所の三位一体による技術の交流イベントなどを予定している。

雇い事 インフラの新たな監視サービス「光ファイバ環境モニタリング」(道路掘削工事検知)

【モデルネットワーク】 R15会場では、アクセスネットワーク技術の全体像を、NTTビル内からお客様宅までの実設備を用いたモデルでわかりやすく紹介する。また、別会場 R14会場において、「通信基盤設備実物大モデル展示」を実施します。

【アクセスNWテストベッド】 R3、R16会場では、IOWN/6G時代におけるアクセスNW実現に向け、パートナー様との協力を得ながら研究開発と実証実験を一体的に取り組み、研究開発技術の導入を促進することを目的に構築したアクセスNWテストベッドを展示します。

【社会インフラ技術展示】 R1会場では、激甚化する災害対策や労働人口の減少を踏まえた設備の管理・点検の効率化、そのノウハウを活用した新たなビジネス創出を目的に、NTT以外のインフラ会社様や研究機関などにも出展いただき、日本の将来を支える社会インフラ技術を紹介いたします。

【安全技術特設展示】 E12会場入り口付近では、昨今の人事事故多発を受け、共催・後援団体とAS研による安全に関する特設展示を行います。

【展示コンソントナム】 出展社と来場者様のコミュニケーションを活性化するため、昨年に続き今年も来場者の興味に合わせた展示を会場マップに表示し、おすめ展示をレコメンドいたします。並目にはE12会場入り口付近に設置した検査端末を利用し、この日のスマートフォンの安全に関する特設展示を閲覧することもできます。

来場者様の関心に応じた展示を見つけてやすくなり、出展社とのコミュニケーションがスムーズに行われる場をご提供します。

吊り荷オーバーの車両転倒事故防止へ 旧型穴掘り建柱車用システム VE提案中 実用版8月に提供

エクシオグループ

エクシオグループでは、旧穴掘り建柱車の作業範囲を可視化する装置を提案するほか、VE提案採用品と現在提案中の現場で役立つ提案品14点を紹介する。

◆旧型の穴掘り建柱車に取り付けられる許容範囲判定システムの開発

昨今、穴掘り建柱車の荷の吊り上げ下げ作業時に、許容範囲を超えが原因の車両転倒事故が連発している。新型車両には許容範囲を超える作業を許可しない制御機能が搭載されているが、施工現場で多く稼働している旧型車両にはその機能がなく、許容範囲の把握が困難だった。本システムは、許容範囲を超えようとすると、警音で危険を知らせ、作業員は許容範囲内の車両設置ができる。ここが可能である。開発に協力した作業員からは「これまで経験に基づいた操作となっていたが、許容範囲が可視化できるの、より注意深く作業できるようになった」とのコメントも得ている。

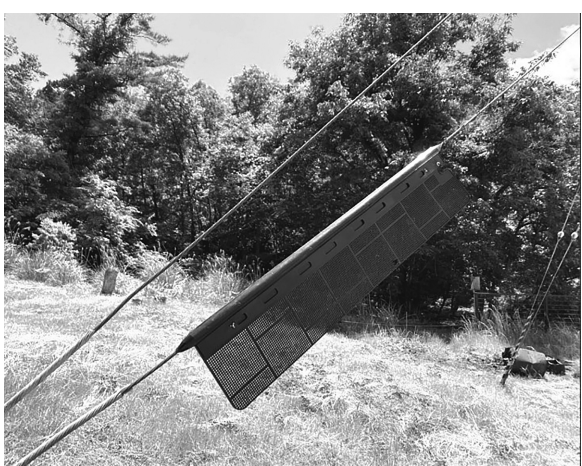
特許取得(特許第7618087号)、現在NTT天での利用が可能(防雨・今年8月提供予定)。



穴掘り建柱車で許容範囲判定システムを利用した作業例

企業出展紹介

ツル性植物のクズから支線を保護 カズラ・クライムシャッター旗型 機能向上したタイプII新登場



新登場した「カズラ・クライムシャッター旗型」タイプII

中症のリスクも伴う。そこで活躍するのが、カズラ・クライムシャッターシリーズである。中でも支線のクズ対策として2020年に登場した「カズラ・クライムシャッター旗型」は、クズが上りにつく形状と忌避剤の付いたシートで高い効果を発揮。全国での実証実験でも、その効果が実証されている。そして今回、その機能をさらに向上させた「タイプII」が新登場した。シートから樹脂射出成型に変更することで耐久性がアップ。忌避剤の特長期間も従来の約2倍に伸び、より長期間にわたるクズ対策が可能になった。

野蠻なヘビースの形状はそのままに、作業性や運搬性も確保。進化した「カズラ・クライムシャッター旗型」タイプIIは、クズ被害から大切なインフラを守ってくれる。

コムシス通産(日本コムシスグループ)

コムシスグループは、人と社会の「つながり」を支えます



コムシスホールディングス株式会社

〒141-8647 東京都品川区東五反田 2-17-1 TEL 03-3448-7100 <https://www.comsys-hd.co.jp>

つなぐエンジニアリング・カンパニー

人をつなぎ、都市をつなぎ、ビジネスをつなげる

「つなぐ力」で人々の日常を彩り、都市や環境をより豊かにし、ビジネスの革新を加速させていきます。

一步一步、明日を変え、未来の“あたりまえ”を創り続けていきます。



エクシオグループ株式会社

